

ヨハネス・プライザー＝カペラー博士・エカテリーニ・ミツイウ博士 連続講演会・シンポジウム

2019年11月に立教大学招へい研究員としてヨハネス・プライザー＝カペラー博士を、科研費招聘研究員としてエカテリーニ・ミツイウ博士のご夫妻を招聘する。それに伴い立教大学・北海道大学・大阪市立大学において連続講演・カンファレンスを行う。

プライザー＝カペラー博士は1977年オーストリア生まれ。ウィーン大学で2006年に博士号を取得し、オーストリア科学アカデミーのビザンツ研究部門で専任研究員をつとめる。専門はビザンツ帝国史、環境史、中世グローバルヒストリー、デジタルヒストリー。主要著作に『後期ビザンツ帝国の司教座制度』(*Der Episkopat im späten Byzanz. Ein Verzeichnis der Metropolen und Bischöfe des Patriarchats von Konstantinopel in der Zeit von 1204 bis 1453*, Saarbrücken, 2008)ならびに『ローマとカール大帝の彼方』(*Jenseits von Rom und Karl dem Großen. Aspekte der globalen Verflechtung in der langen Spätantike, 300-800 n*, Vienna, 2018)など多数。

エカテリーニ・ミツイウ博士は1973年ギリシア生まれ。ウィーン大学で2008年に博士号を取得後、現在は、オーストリア学術アカデミーならびにゲッティンゲン学術アカデミーの研究員をつとめる。専門はビザンツ帝国の女子修道制ならびに環境史。主要編著に『皇帝シギスムンドと正教世界』(*Emperor Sigismund and the Orthodox World*, Vienna, 2010)『中世東地中海の女性と修道制』(*Women and Monasticism in the Medieval Eastern Mediterranean: Decoding a Cultural Map*, Athens, 2019)など多数。

お問い合わせは小澤宛へ (m-ozawa@rikkyo.ac.jp)。

1)

日時：11月5日(火) 18:30-20:00

場所：立教大学池袋キャンパス12号館第1会議室

公開講演会「環境からみた中世グローバルヒストリー1」

報告者：ヨハネス・プライザー＝カペラー(オーストリア科学アカデミー)

報告タイトル：「14世紀の「大移行」と「小氷期」——西欧を超えた比較視点——」(The “Great Transition” and the “Little Ice Age” – a comparative perspective on the 14th century CE beyond Western Europe)

コメント：諫早庸一(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター)

言語：英語(資料配布)

主催：立教大学文学部史学科

2)

日時：11月11日(月) 16:30-18:00

場所：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター401会議室

報告者：ヨハネス・プライザー＝カペラー(オーストリア科学アカデミー)

報告タイトル「より広い世界のなかの新たなローマ——14世紀ビザンツとスラブ・ユーラシア世界との間の相互連環と遠隔相関——」(New Rome in a larger World –

Entanglements and teleconnections between Byzantium and the Slavic-Eurasian World of the 14th century CE)

言語：英語

主催：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター

3)

日時：11月15日(金) 18:30-20:30

場所：立教大学池袋キャンパス本館 1104

公開講演会「環境からみた中世グローバルヒストリー2」

報告者：ヨハネス・プライザー＝カペラー（オーストリア科学アカデミー）

報告タイトル「火山、疫病、サクラ：初期中世アフロ・ユーラシア世界の絡みあうエコロジー」(Volcanoes, plagues and cherry blossoms. Entangled ecologies of early medieval Afro-Eurasia, 500-900 CE)

コメント1：津田拓郎（北海道教育大学）

コメント2：佐藤雄基（立教大学）

言語：英語・日本語（資料配布）

主催：立教大学文学部史学科

4)

日時：11月16日(土) 15:00-17:30

場所：立教大学池袋キャンパス・ロイドホール5階人文研究センター

報告者：エカテリーニ・ミツイウ（ゲッティンゲン科学アカデミー/オーストリア科学アカデミー）

報告タイトル「ビザンツ世界における修道院、船舶、島嶼：“聖ならざる”もつれ合いの歴史」(Monasteries, ships and islands in Byzantium: a history of an "unholy" entanglement)

コメント1：村田光司（名古屋大学）

コメント2：赤江雄一（慶應義塾大学）

言語：英語（資料配布）

主催：立教大学文学部史学科

共催：科研費基盤（A）「前近代海域ヨーロッパ史の構築：河川・島嶼・海域ネットワークと政治権力の生成と展開」（研究課題 19H00546）；修道会史研究ネットワーク

5)

日時：11月17日(日) 10:00-17:00

会場：立教大学池袋キャンパス太刀川記念館3階多目的ホール

西洋史研究会大会共通論題「中世の帝国：ネットワークの諸相」(Medieval Empires and their Networks)

報告者1：ヨハネス・プライザー＝カペラー（オーストリア科学アカデミー）

「危機にある帝国形成：11世紀のグローバルなコンテクストにおけるビザンツ帝国と神聖ローマ帝国」(Imperial formations in crisis: Byzantium and the Holy Roman Empire in a global context of the 11th century)

報告者2：小澤実（立教大学）

「ネットワーク化されたスカンディナヴィア世界における海上「帝国」の形成：交易中心地、船舶、イエリング王権」（Making of a Maritime "Empire" in the Networking Scandinavian World: Trading Centres, Ships, and the Danish Jelling Dynasty）

報告者3：古松崇志（京都大学）

「11世紀ユーラシア東方における多国体制と帝国」（Empire and Multilateral System of Eastern Eurasia in the 11th Century）

コメント1：高田良太（駒澤大学）

コメント2：四日市康博（立教大学）

言語：英語・日本語（ディスカッション時通訳あり）

主催：西洋史研究会

共催：立教大学文学部史学科；科研費基盤（A）「前近代海域ヨーロッパ史の構築：河川・島嶼・海域ネットワークと政治権力の生成と展開」（研究課題 19H00546）

6)

日時：11月19日（火）15:30-18:30

会場：大阪市立大学杉本キャンパス文学研究科棟 122

ワークショップ「世界史における東地中海」（Workshop: The Eastern Mediterranean in the World History）

報告者1：エカテリーニ・ミツイウ（ゲッティンゲン科学アカデミー/オーストリア科学アカデミー）

「亡命するビザンツ宮廷：いわゆるニカイア帝国における帝國的空間、1204-1261年」（Byzantine courts in exile: imperial spaces in the so-called Empire of Nicaea, 1204-1261 CE）

報告者2：ヨハネス・プライザー＝カペラー（オーストリア科学アカデミー）

「宮廷を給養する：初期中世アフロ・ユーラシア世界における都市メタボリズムと大規模帝国センターの比較」（Feeding palaces: urban metabolisms and large-scale imperial centres across early medieval Afro-Eurasia in comparison）

報告者3：片倉綾那（大阪市立大学）

「12世紀ビザンツ宮廷における皇女の政治的役割」（The Political Role of Komnenian Princesses at the Byzantine Court in the Twelfth Century）

司会：北村昌史（大阪市立大学）・草生久嗣（大阪市立大学）

言語：英語

主催：大阪市立大学大学院文学研究科プロジェクト「東地中海世界の歴史的展開を、古代から現代に至るまで通時的に再検討する」

共催：科研費基盤（A）「前近代海域ヨーロッパ史の構築：河川・島嶼・海域ネットワークと政治権力の生成と展開」（研究課題 19H00546）

お問い合わせは草生宛へ（kusabu @lit.osaka-cu.ac.jp）